

情報提供資料

令和6年6月27日(木)

日高市

教育部 生涯学習課 生涯学習担当

Tel042-989-2111 内線 5535

課長 吉野 修

担当者職・氏名 主査・金嶋 信也

第33回大学公開講座 日高ライブラリーカレッジを開講します

大学公開講座日高ライブラリーカレッジは、平成2年度に開講し、今年で第33回目となります。

開講当時から現在に至るまで、受講生参加型の公開講座であり、受講生で構成される企画運営委員会が企画・運営を行っています。第33回となる今回は、全7回で開講します。

日時 8月17日、9月7日、21日、10月5日、19日、11月2日、16日の土曜日（全7回） 午後1時30分から

場所 日高市生涯学習センター（日高市大字鹿山370番地20）

人数 100人（申し込み順）

内容 別紙のとおり

講師 別紙のとおり

費用 2,000円（全7回）

申し込み 7月1日（月）から、電子申請または各公民館・図書館・生涯学習課に備え付けている申請書を記入し、直接各施設に提出してください。

< 学習プログラム >

※都合により、テーマや講師などが変更になる場合があります

| 日 時 ・ 場 所 | テ ー マ / 講 師 (敬 称 略) | 講 義 内 容 |
|--|---|---|
| 第 1 回 | 開講式 講義開始前 | |
| 8月17日(土) 午後1時30分～4時30分 日高市生涯学習センター | 人新世の里山の活かし方 オークヴィレッジ創業者 稲本 正 オリエンテーション 講義終了後 | 日本人は、かつて「人と自然は一体化したものだ」と考えていたが、自然を敵と見なした西洋の二元論が浸透して、地上動物の9割を人間と家畜で占める『人新世』になり、里山から薪や炭を取らなくなって荒れ放題になった。その里山を『食と健康の森』に作り直し『自給遊園』にすれば戦争とパンデミックも防げる。 |
| 第 2 回 | 太古の地球に最初の生命が誕生するまでのみち のり 東京工業大学名誉教授 丸山 茂徳 | 最初の生物は自然原子炉間欠泉で生まれました。まず無機化合物から初歩的な有機化合物が創られ、最後に巨大な有機分子からなるDNA-RNA, ncRNA、細胞膜の装置群(ATP製造装置,各種ポリリン、プロトン、Na,K)とリボソームが生まれました。遺伝子の数は200-300で、自己複製まで行えます。 |
| 第 3 回 | インバウンドブームと日本へのまなざし ～訪日外国人から見た日本の魅力～ 杏林大学外国語学部准教授 安江 枝里子 | 海外に行く日本人旅行者の数が伸び悩むなか、日本にやってくる外国人旅行者の数は増えています。彼らは日本のどんなところに魅力を感じているのでしょうか？また、彼らはどのように日本を楽しんでいるのでしょうか？国際観光の世界的なトレンドを踏まえたうえで、訪日外国人から見た日本の魅力を考えていきましょう。 |
| 第 4 回 | 日本の農業における危機と未来 ～スマート農業を支えるセンサ技術～ 埼玉大学大学院理工学研究科准教授 長谷川 有貴 | 少子高齢化による人手不足や異常気象への対応など、日本の農業における「危機」を救うために導入が進められている「スマート農業」では、センサを用いた環境、生育状態の計測、自動運転やドローンなど、さまざまな最先端技術が使われています。この講演では、農業における課題解決のためのスマート農業を支えるセンサ技術とその活用について紹介します。 |
| 第 5 回 | 日本経済の課題と未来 一橋大学経済研究所教授 宮本 弘暁 | 日本経済の潮目が変わりつつあります。2022年春以降、世界的なインフレを背景に、日本でも物価が上昇し、賃金も上がり始めました。また、今年3月には日経平均株価が34年ぶりに最高値を更新しました。一方、少子化は進み、円安も進んでいます。今後、日本経済はどうなるのでしょうか？本講演では、皆様と一緒に日本経済の現在と課題、そして未来について考えていく。 |
| 第 6 回 | 自分と大切な人の最期と向き合うために 医療コーディネータージャパン(株)代表 堀 エリカ | 誰もが必ず迎える「死」をテーマに、①自分の死を紙上で体験する「死の疑似体験ワーク」への参加を通じて、生きていること、自身にとって真に大切なものを再考する、②大切な人との別れがもたらす喪失体験に寄り添い、支える「グリーフケア」を学ぶ、それぞれの機会とする。 |
| 第 7 回 | シニア人生の人間関係を考える 立教大学名誉教授 大野 久 閉講式 講義終了後 | 職業からの引退、子育ての終了などにより、シニアの生活は大きく変化します。その後の生活をより充実するものにするためには、これまで当たり前だと思っていた人間関係も見直す必要があります。どうすればよりよい人間関係が築けるのか考えるヒントをご説明します。さらに次の世代へのバトンタッチしていく意義と方法についても考えてみましょう。 |